

2016年4月15日

報道関係各位

一般社団法人日本能率協会
ドイツメッセ日本代表部

**【開催レポート】世界最大級 B to B IT 関連専門展示会
「CeBIT(セビット) 2016 (国際情報通信技術見本市)」**
～2016年3月14日(月)～18日(金)、ドイツ・ハノーバー～
世界70カ国・地域から3,300社が出展



世界最大級 B to B の IT 関連専門展示会「CeBIT」は、2016年3月14日(月)～18日(金)まで、ドイツ・ハノーバーで開催され、現地時間18日(金)18時に閉幕しました。
世界70カ国・地域から3,300社が出展。4日間で約200,000人が来場しました。

【開催速報】 ※3/18速報値

名称：CeBIT 2016
(セビット/国際情報通信技術見本市)
会期：2016年3月14日(月)～18日(金)
各日9:00-18:00
会場：ドイツ・ハノーバー国際見本市会場

出展企業数：70カ国・地域から3,300社
来場者数：100以上の国・地域から200,000人



日本からの出展者(海外法人含む)：エヌ・ティ・ティ・データ、エプソン、京セラ、コア、コニカミノルタ、スリーアールソリューション、日本コントロールシステム、日本プリメックス、富士通、ブラザー、プラスワン・マーケティング

注目の企画：

- ・初めて、「欧州デジタル・アジェンダ」に関するカンファレンスを実施
- ・400社以上のスタートアップ企業が売り込み～「SCALE11」
- ・コニカミノルタ CEO 兼代表取締役社長の山名昌衛氏も登壇～「CeBIT Global Conferences」
- ・「ヒューマン・マシン・インターフェース」や「バイオハッキング」に高い関心

【本件に関するお問い合わせ】 一般社団法人日本能率協会 ドイツメッセ日本代表部
担当：竹生(たけお)、高間(たかま) 〒105-8522 東京都港区芝公園3-1-22
TEL: 03-3434-6447 / FAX: 03-3434-8076 / E-Mail: DMS@jma.or.jp
※取材のお問い合わせは、広報室(TEL: 03-3434-8620、担当: 斎藤)へお願いいたします

*日本能率協会ビル全面リニューアル工事のため 2016年4月29日より2017年12月(予定)の間は 下記に仮移転します。電話番号・FAXは変更ございません。
〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋1-2-2 住友商事竹橋ビル14階

CeBIT 2016は、70カ国・地域から3,300社が出展し、情報通信、ITサービス、製造業、サービス業など幅広い産業分野から100カ国以上、約200,000人の来場者がありました。CeBIT 2016では、デジタル化とエコノミーをつなげた造語「d!conomy (ディコノミー) : join (参加) – create (創造) – succeed (成功)」をトップテーマに掲げ、企業・団体の中でも、特に、デジタル化を推進する決定権者に向けて訴求しました。その結果、販売、マーケティング、金融、銀行、保険といった分野に携わる方たちの来場が大幅に増加しました。

また出展者は、展示ブースの来場者が最新の製品情報に高い関心を示したと報告しています。幅広い業界や事業部門の決定権者と行われた多くの商談において、特定の業種でデジタル化によってもたらされるチャンスが話題になりました。主要トピックには、デジタル化を促進する企業のための、IoT、クラウド、分析、セキュリティ、リソース計画などが含まれています。

■初めて、「欧州デジタル・アジェンダ」に関する欧州連合（EU）カンファレンスを実施

欧州委員会が「欧州単一デジタル市場戦略」を作成し、「欧州デジタル・アジェンダ」の一部に採択しました。「単一デジタル市場戦略」は、EU28カ国の市場バリアを取り去り、統合されたひとつの市場を結実させ、ヨーロッパ大陸をカバーする通信網、国境を越えたサービスの実行、スタートアップ企業の促進を目標にしたプロジェクトです。

CeBITでは今回初めて、「欧州デジタル・アジェンダ」に関する欧州連合（EU）カンファレンスを実施しました。EU委員のギュンター・ヘルマン・エッティンガー氏は基調演説で、EUのデジタル単一市場や欧州全体の法律の必要性を呼び掛け、国境はデジタル化において限られた関連性しか持たないことを指摘しました。エッティンガー氏は、ビジネスや政治の分野から2,000人超のゲストが参加した「Welcome Night」で行った演説でもこれを強調しました。

■メルケル独首相が会場視察

会期2日目の3月15日には、ドイツのアンゲラ・メルケル首相がCeBIT会場に来場し、デジタル化によって開かれるチャンスとソリューションを視察しました。メルケル首相は、「時間は根本的要素である」と呼び掛け、効率性向上の大きな可能性を活用するために、今日の「モノ」をインターネットに接続することを加速する必要があると付け加えました。



■400社以上のスタートアップ企業が、自社の技術、サービス、アイデアを売り込み

ホール11の「SCALE11 (スケール11)」と名付けられた区画を、スタートアップ企業の製品・サービス発表や交流の場として提供しました。この場には、400社以上のスタートアップ企業が集い、既存企業や投資家に向けて、自社の技術、サービス、アイデアを発表し、売り込みました。

「SCALE11」のステージでは、若い企業家たちが自分たちのアイデアを熱く語りました。また、ボクシングリングを模したフロアで、スタートアップ企業の創設者が1対1で向き合い、自分たちのアイデアを戦わせて売り込む“試合”をする「Founders Fight Club」なども行われました。

来場者の3人に1人が「SCALE11」に立ち寄ったことを見ても、「新しい創造的なビジネスモデル」への関心の高さがうかがえました。

■日本から、コニカミノルタCEO兼代表取締役社長の山名昌衛氏も登壇

ホール8では、「CeBIT Global Conferences (CeBITグローバルカンファレンス)」が開催されました。「CeBIT Global Conferences」は、ユーザー側にも焦点を当て、討論会や講演、パネルディスカッションを通じ、著名な産業リーダーが新しいビジョンやコンセプトを発表するものです。5日間の会期で200人以上の講演者が登壇し、戦略とビジョンについて観客と語り合いました。

基調講演者およびパネリストとして、コニカミノルタCEO兼代表取締役社長の山名昌衛氏をはじめ、Huawei 法人向け事業グループ代表取締役社長の閻力大（エン・リダ）氏、Ericsson CEO兼代表取締役社長のハンス・ヴェストベリ氏、Wazeナビゲーションスタートアップ創設者のウリ・レバイン氏、指導的な神学者のヴォルフガング・フーバー氏などが登壇しました。

■「ヒューマン・マシン・インターフェース」や「バイオハッキング」に高い関心

人と機械が情報をやり取りするための機器やソフトウェアなど「ヒューマン・マシン・インターフェース」の未来に対する高い関心も見られました。多くの来場者が、教育およびサービス分野で使用される人型ロボットについて詳しく知ろうとしていました。

また、CeBIT会場とソーシャルネットワーク上の両方で論争の的となったトピックが、電子機器を人体に埋め込む「バイオハッキング」の問題です。会場では、来場者が自身の手に、電波を使って個体識別を行う小型RFID-NFCチップを埋め込む「バイオハッキング」も体験できました。



次回 CeBIT 2017 (セビット)

会期：2017年3月20日～24日

会場：ドイツ・ハノーバー国際見本市会場

以上